

箱根ラリック美術館 特別企画 「花咲く ラリックと^{きん から かみ}金唐紙」

期 間 2014年6月14日(土)～12月7日(日)

2014.03



ルネ・ラリック作 花器「きんぼうげ」1930年
金唐紙「鳥とアイリス」



上ノルネ・ラリック作
ペンダント「フジ」1900-1903年頃



下ノルネ・ラリック作
マントルピース用ランプ「バッタ」1931年

花咲き、鳥たちが歌う。「花鳥風月」の世界あふれるルネ・ラリックの作品。それは自然をこよなく愛する彼がたどり着いた美の境地でした。明治時代、西洋に日本からもたらされた日本工芸の粋、金唐紙。自然の草花から生まれたきらびやかに浮き立つ文様は、まるでラリックに直接影響を与えたかのようです。洋と和の名品が織りなすハーモニーをお楽しみいただけます。

会 場 箱根ラリック美術館(企画展示室・常設展示室)

出展作品 ルネ・ラリック作

花器「きんぼうげ」1930年

ペンダント「フジ」1900-1903年頃

マントルピース用ランプ「バッタ」1931年

など約70点

金唐紙「鳥とアイリス」 など約50点

協 力 上田^{たかし}尚、擬革紙煙草入れ資料館「三忠」、旧岩崎邸庭園、

金唐紙研究所、公益財団法人 紙の博物館

(五十音順、敬称略)

きんからかみ 金唐紙とは

金唐紙は、江戸末期から明治期にかけて日本で発展した工芸紙です。ヨーロッパの金唐革(ギルトレザー)をルーツとし、革の質感を手漉きの和紙で実現したこの高級壁紙は、1873年に初めてウィーン万博に出品され話題を集め、海外からの注文が殺到しました。日本国内でも鹿鳴館や国会議事堂といった重要な建築物の壁紙として使用され、一時代を築きました。しかし、アール・ヌーヴォーの衰退やライフスタイルの変化とともに、その後、衰退の一途をたどりました。



LALIQUE MUSEUM, HAKONE

特別企画詳細

フランスを代表する工芸作家ルネ・ラリックの作品と、明治期に隆盛を極めた絢爛豪華な日本の工芸壁紙、金唐紙。素材も異なり、まるで接点がないかのように思われますが、この二つを並べてみると、今にも鳥が舞い踊り、草花も咲き乱れるかのように、作品同士が生き生きと見えてきます。

ラリックと日本美術

ラリックのジュエリー作品の多くは、野に咲く草花や可憐な女性、時には昆虫などの小動物がモチーフになっています。これは当時大流行した芸術様式“アール・ヌーヴォー”の特徴のひとつで、実は日本美術からの影響を受けています。開国後に日本から大量に流出した美術品・工芸品は、ヨーロッパの芸術家に衝撃を与え、アール・ヌーヴォー様式に発展し、金唐紙もそのひとつでした。ラリックは、“自然を敬い愛でる”日本人の美意識を理解していたかのように、上手にその要素を作品に取り入れました。



ルネ・ラリック作 チョーカーヘッド
「流れる髪の女」1898-1900年頃
ラリックのジュエリー作家時代の傑作。右
の金唐紙の“流水紋”のように、女性の髪が
表現されている



金唐紙「狩人」

ラリックと金唐紙に込められた想い

1900年を過ぎると、アール・ヌーヴォー様式は飽きられ、シンプルなデザインの“アール・デコ”が流行します。その劇的変化の中、ラリックは、ジュエリー作家からガラス工芸家へと転身を遂げますが、制作スタイルをがらりと変えた後も、自然を描き続けました。幼い頃、故郷のフランス、シャンパーニュ地方で、野に咲く花や昆虫たちと触れ合った体験が心にずっと宿っていたからでしょうか。それは、日本人の感覚に通じるものがありました。

日本美術の要素が随所に潜んでいるラリック作品と、西洋を意識しながらも日本人の“もの造り精神”が込められた金唐紙。二つの作品を並べた時、違和感なく調和して見えるのは、「芸術を通して生活を豊かにしたい」という強い想いが両方に込められているからなのです。



ルネ・ラリック作
花器「つむじ風」1926年



金唐紙「うずまき文様」

金唐紙制作実演・ワークショップも開催予定

今回、ご紹介する金唐紙は、国選定保存技術保持者である上田尚^{たかし}が、オリジナルの版木を使って復刻したものです。少ない資料をもとに、手探りで金唐紙の制作技術を研究し、上野にある旧岩崎邸などの全国各地の金唐紙を復元させています。今回は、実際に上田尚が金唐紙を制作する様子をご覧ください。他にも夏休み期間中は、今年も子供のためのワークショップを実施します。

金唐紙制作実演実施日 8月9日(土)、10日(日)、10月11日(土)、12日(日)

見学料 無料(入館料のみ)



ワークショップの様子(イメージ)



上田尚^{たかし}プロフィール

上野、旧岩崎邸の壁面を復刻した上田尚は、日本で唯一金唐紙を手掛ける国選定保存技術保持者。作品は平成19年5月、ロンドンにおける展覧会「金唐紙 The Art of Japanese Leather Paper」で高い評価を受け、大英博物館やヴィクトリア&アルバート美術館におけるワークショップでも大好評を博した。平成23年春には、旭日双光章を受賞。



LALIQUE MUSEUM, HAKONE

同時開催特別イベント「彩花盆栽教室」

今回の企画展に出品される金唐紙が世界にデビューしたのが、1873年のウイーン万博。同時に出品され、世界の人々を驚かせたのが盆栽でした。日本ブームの火付け役を担い、今も世界に多くの愛好家がいるBONSAIの世界への入門編として、今話題の彩花盆栽家元；山田香織による彩花盆栽教室を開催します。

- 盆栽教室日時 7月5日(土)、6日(日) 午後各2回
10月18日(土)、19日(日) 午後各2回
- 定 員 各回30名
- 参 加 費 7,500円(講習・教材費込み、消費税別)
※作品はお持ち帰り頂きます。
- 申 し 込 み 箱根ラリック美術館 TEL.0460-84-2255
- 特 別 展 示 日本伝統的な盆栽と彩花盆栽作品



盆栽教室の様子



山田香織プロフィール

彩花盆栽教室主宰。

盆栽「清香園」4代目園主・山田登美男氏の一人娘として生まれ、幼い頃から跡取りとしての盆栽に関する教育を受ける。

現在、多くの人に盆栽の魅力を知ってもらおうと、「彩花盆栽教室」を開いているほか、NHK Eテレ「趣味の園芸」のキャスターを務めるなど、テレビ出演や講演活動、執筆活動など多方面で活躍している。著書に『はじめての盆栽樹形』、『彩花盆栽入門』、『山田香織の盆栽スタイル』などがある。



彩花盆栽作品例(オメガ コンステレーション×アート展)

その他イベントも開催予定

その他にも、季節ごとに花をテーマにした、企画展関連イベントを予定しています。

また期間中レストランでは、企画展示スペシャルメニューとして、金唐紙をイメージし、ラリック作品に感じる和をテーマにした食事メニューや、花と金唐紙を表現した華やかなスイーツなども提供します。



特別展示スペシャルメニュー(イメージ)



箱根ラリック美術館 特別企画 「大森暁生展 -René Laliqueへのオマージュ-」

彫刻家 大森暁生。ラリックを敬愛する彼は、「誰も見たことのないものを生み出し世に放つとき、創り手は勇気がいるものだ。ラリック作品を目の前にすると、いつも心がザワザワと音を立て、一步踏み出す勇気を与えてくれる。」と語ります。ラリック自身も、「それまでに誰も目にしたことのない作品を、一人でも多くの人に手にしてほしい」との想いを込め、制作に励みました。

時代を隔てながらも、志を同じくする二人の作品が、今、箱根ラリック美術館で出会います。今回は、大森の業績をたどる彫刻作品に加え、ラリックに捧げた新作も発表します。



大森暁生プロフィール

1971年 東京生まれ
1996年 愛知県立芸術大学美術学部彫刻専攻卒業
1995年～2002年 彫刻家 藪内佐斗司氏のアシスタントを務める

木彫および木彫原型によるブロンズ作品を中心として、国内外のギャラリー、百貨店、アートフェア、美術館等での展示、多くのアパレルとのコラボレーションなど幅広く作品を発表。

フォトエッセイ+作品集『Please do disturb』(芸術新聞社)、大森暁生作品集『月痕 つきあと』(マリア書房)を刊行。

- 期 間 3月17日(月)～5月11日(日)
- 会 場 箱根ラリック美術館
(常設展示室1階・ミュージアムショップ)
- 出 展 作 品 大森暁生作
「月夜のレターオープナー -Arowana-」2013年 他
ルネ・ラリック作
花器「蛇」1924年
花器「茨」1921年
- ※期間中、大森暁生最新作の先行特別販売もあります。



大森暁生作
彫像「天使のトルソ」2007年
ルネ・ラリック作
花器「茨」1921年



大森暁生作
彫像「デビルのトルソ」2007年
ルネ・ラリック作
花器「茨」1921年



大森暁生作「月夜のレターオープナー -Arowana-」2013年
©AKIO OHMORI Photo:KATSURA ENDO



大森暁生作 彫像
「ぬけない棘のエレファント」2002年
©AKIO OHMORI Photo:KATSURA ENDO



展示の様子



LALIQUE MUSEUM, HAKONE



施設概要

施設名称	箱根ラリック美術館 (LALIQUE MUSEUM, HAKONE)
所在地	〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原186番1 TEL : 0460-84-2255 FAX : 0460-84-2271 URL : www.lalique-museum.com
開館日	2005年3月19日 (土)
営業時間	午前9時～午後5時 (入館は午後4時半まで)
営業日	年中無休 (展示替のため臨時休館あり)
美術館入館料	大人 1,500円 高校生、大学生、シニア (65歳以上) 1,300円 小学生、中学生 800円 ※レストラン、ショップ、庭園の入場は無料です ※2014年4月以降も入館料の変更はありません
施設内容	敷地総面積 13,004.50㎡ 美術館棟 2,601.30㎡ ミュージアム・ゲート 70.78㎡ 特別展示 オリент急行サロンカー カフェレストラン・LYS 1,083.45㎡ 店内100席 テラス100席 ショップ・パッサージュ 827.93㎡ 1階90坪 2階30坪 庭園 (池、小川、蝶の森)
専用駐車場	第一駐車場 (100台) 1日300円 第二駐車場 (100台) 無料
アクセス	電車・バスをご利用の場合 ■箱根登山鉄道「箱根湯本駅」より、箱根登山バス「湖尻・桃源台」行きにて約30分 「仙石案内所前」下車すぐ ■小田急箱根高速バス「新宿駅」より約120分「箱根仙石案内所」下車すぐ ■箱根施設めぐりバス「箱根ラリック美術館」下車すぐ ■小田急箱根高速バス羽田線「羽田空港」より「横浜駅東口バスターミナル (そごう横浜店)」 「御殿場駅」経由約150～165分 「箱根仙石案内所」下車すぐ 車をご利用の場合 ■東名御殿場I.C.より乙女峠経由、仙石原まで約20分
設計・施工	鹿島建設株式会社、株式会社丹青社
事業主	株式会社ル・ミューゼハタ
本社所在地	東京都中央区銀座4丁目4番5号
代表者	代表取締役 旗 功泰

本件及び取材等に関するお問い合わせ先 箱根ラリック美術館 P R 担当: 株式会社小田急エージェンシー tel : 03-3344-5988
貴誌 (紙)・貴番組にて掲載いただく際の読者からのお問い合わせ先 箱根ラリック美術館 tel : 0460-84-2255



LALIQUE MUSEUM, HAKONE